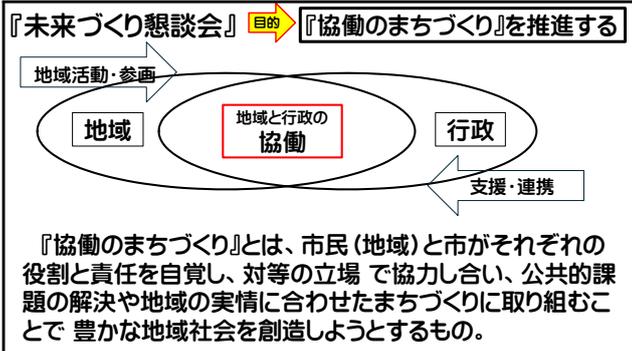


城北まちづくり通信

2024/11/14
61号
城北まちづくり協議会
事務局：城北地区公民館

「地域の未来づくり懇談会 11月5日」(報告)

城北地区公民館を会場にして、『“つながり合えるまちづくり”の再構築』をテーマに行政担当課(協働推進課4名・地域福祉課3名・社会福祉協議会1名)と、下記の2点に絞って意見交換しました。



- ① 令和6年4月から、新たな「公民館条例」の運用が始まり、公民館が地域コミュニティの維持と、持続的な発展を支援するセンター的な役割を担う拠点となった事の確認。
- ② 令和6年4月から「孤独・孤立対策推進法」が施行されました。城北地区として、孤独・孤立防止のための「見守り活動」・“居場所作り”等の在り方・仕組みづくり・活性化について。

城北地区からの出席者は、「棚卸し連携協議会委員」を中心に、「城北まちづくり協議会行政分野アドバイザー」の吉野市議・玉木県議にも加わっていただき、建設的な意見を交わしました。

住民に最も身近な公共施設としての公民館が、地域活動の拠点であることは、これまでも・これからも変わりませんが、より幅広いニーズに柔軟に応える施設としての運用が可能になりました。立場の違う誰もが「いいね!」と感じる“住んで良かったと実感できるまちづくり”を、進めていくヒントをいただいた懇談会になりました。

「城北まちづくり協議会研修視察 11月8日」(報告)

地域の魅力を生かしたまちづくりをテーマに、城北防災会と共催で『鷺羽山・下津井まちづくり推進協議会』の取り組みを学ぶことができました。

市民団体、商工会議所、大学、行政を巻き込んで、“自分たちを取り巻くコミュニティが抱える課題をリサーチし、その課題解決のために、我が事として自分ができるところを考え、実行するという、草の根のコミュニティプロジェクトに取り組んでおられ、たくさんのヒントをいただきました。

行政主導ではなく、住民が立ち上げた公益性のある企画に、賛同者を募って活動する力強さを肌で感じました。また、助言や支援を行う活動にも組織として取り組まれ、イベントの開催、地元製品の販売促進、観光資源の活用、地域の歴史や文化を伝える活動にダイナミックに取り組まれていました。

主な事業部会等

- ◎地域連携部会 (地域資源と人的資源の相乗効果による活性化)
 - ◎イルミネーション部会 (JR児島駅前~交流センターのイルミネーションの設置)
 - ◎フラワーロード部会 (無左衛門通り、JR児島駅前通りの植替え、草抜き、水やり)
 - ◎児島駅前花壇部会・児島駅前賑わい創出部会
 - 下津井シービレッジプロジェクト (空き古民家を活用した民泊)・起業の推進
 - 旧下津井西小学校松島分校を活用した活性化部会 (旧松島分校活性化部会)
 - 鷺羽山・下津井地区・松島と連携したイベントの開催、アーティストインレジデンス、地産物を活用した新商品開発等
- まちづくり推進協議会の楠本新太郎会長には大変お世話になりました。

